

く調査していることがよく分かる。道理で、輸入品が日ましに増加し、止まることがないわけである。》

展示効果はよくないが研究と影響にみるべきものがある

とくに言及するに値することは、当時の人が勸業会開催期間においてなした研究である。宣統二年〔1910年〕五月二十一日、張謇らが「南洋勸業会研究会」を組織した。その目的は「同志を集め、南洋勸業会の展示品について、その技術の優劣や改良の方法を研究し、その進歩を導く。勸業の真の趣旨と合致し、展覧会の実効を吸収せん」ためである。蔣炳章が主席、李瑞清が会長、張謇が総幹事をなし、書記に孟森、幹事に黄炎培らが当たった。この研究会は半年間で一連の活動を進めた。一、多くの研究員を招き展示品の研究をし、研究報告103部を発刊した（後に『南洋勸業会研究報告書』を刊行）。二、学術会議を七回開催した。内容は農業、

林業、教育（女子の纏足解放問題を含む）、などの分野で、報告者は馬相伯、袁梓青、柳詒征、沈恩孚、李白曾らであった。三、連絡、座談、意見書の受領など。四、全国農務連合会設立の準備。

研究会の各種の研究報告は、勸業会の成功を一致して評価しているが、同時に展覧会には多くの欠点のあることも指摘している。柳詒征は報告書の中で明確にこうのべている。「勸業会は、社会心理の実験室であり、出口（輸出）の類別を見れば、今日社会の人の思想がどうであるか分かるのである。」と。勸業会開催の意義と価値を見事に指摘している。勸業会には、展示品が少ないとか、準備期間が長すぎるとか、展示品は粗悪なのに費用は莫大であり、しかも展示品の多くにニセモノがあるといった数多くの弊害や欠点があった。しかし率直に言って、このような始まりによって、古い歴史の中国が近代化に向けて邁進すべく一歩を印しえたのである。

（翻訳：成田昭男・車道図書館職員）

- * 原文「中国第一次博覧会——南洋勸業会」『悠游録——鍾少華散文集』学苑出版社、2005
- ** 翻訳にあたって、つぎの文献を参考にした。
 - ・吉田光邦『日本と中国——技術と近代化』三省堂書店、1989
 - ・『中国早期博覧会資料匯編』第1巻、全国図書館文献縮微複制中心、2003

心ときめき

日々の暮らしの中で、胸の高ぶりやときめきを覚えることは、千年前の日本人も現代人と何ら変わらなかつたようです。「ときめく」は、本来〈時+めく〉からなる語で、時世に合致して声望を得ることを表す動詞でした。また「ときめき」は、「ときめく」から生じた名詞です。現代日本語の「ときめき」に相当する平安時代語は、『枕草子』の表現が如実に物語っているように、「心ときめき」と言えるでしょう。（文学部教授 和田明美）

『枕草子』

～「心ときめきするもの」～

雀の子飼^{がひ}…よき男の車^{くるま}と
どめて案内^{あんない}し問はせたる…
待つ人などのある夜、雨
の音、風の吹きゆるがする
も、ふとおどろかる。

（日本古典文学大系 29 段）

私の「ときめき」 文学部1年 袴田梨紗

幼い少年の無邪気な笑顔
平和な毎日の始まりを告げる小鳥たちのさえずり
1Fと4Fで振動が伝わった糸電話
夢中になってボールを運びかけ、そして散る汗
青春を一緒に過ごした仲間と流す涙
いつも温かく迎えてくれるキャンパスの施設
新しい世界へと導く教授陣の講義
はちきれんばかりに収納された書庫の本
何げない毎日だけれど その一瞬一瞬に
わたしのときめきがつまっている